



新型コロナアンケート第2弾 「自粛期間後の生活について」 【概要】

2020年11月
NPO法人全国LD親の会

調査概要

【調査内容】 「新しい生活様式」が広げられていく過程が、発達障害児者にも無理なく進められ、多様性のある社会においてよりよい形にしていくために、全国的な宣言解除後の生活の様子と今後の要望について調査した。

【調査対象】 NPO法人全国LD親の会会員

【調査期間】 2020年9月26日(土) ~ 10月18日(日)

【調査手法】 Webアンケート

【回答者人数】 総数：298名

回答者の子どもの世代内訳：

小学生・中学生	53名	高校生・専門学校生	41名
短大生・大学生	21名	就労準備中	28名
就労中・福祉就労	140名	在宅・その他	15名

I、日常生活の変化

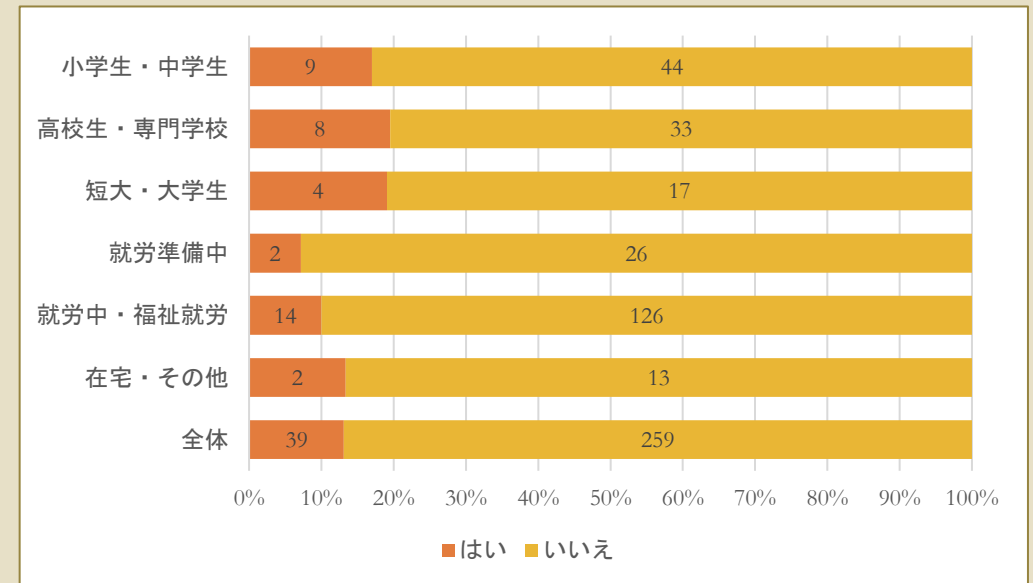
2020年5月4日、新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ政府が示した「新しい生活様式」における実践例に沿って質問項目を作成した。

1、まめな手洗い・マスクの着用について

①困っていることはありますか？

- ・全体の13%が「まめな手洗い・マスクの着用」で困っていると回答。
- ・小学生・中学生が17%、高校生等が20%、大学生等が19%と平均より高い傾向にある。

	はい	いいえ
小学生・中学生	17%	83%
高校生・専門学校	20%	80%
短大生・大学生	19%	81%
就労準備中	7%	93%
就労中・福祉就労	10%	90%
在宅・その他	13%	87%
全体（平均）	13%	87%



グラフ中の棒上の数字は人数

②まめな手洗い・マスクの着用について困っていること

- ・手の洗い方がいい加減
- ・マスクを失くしたり忘れたりが多い
- ・マスク着用を忘れてしまう

- ・マスクをしていると呼吸がしにくい
- ・感覚過敏でマスクをつけたくない

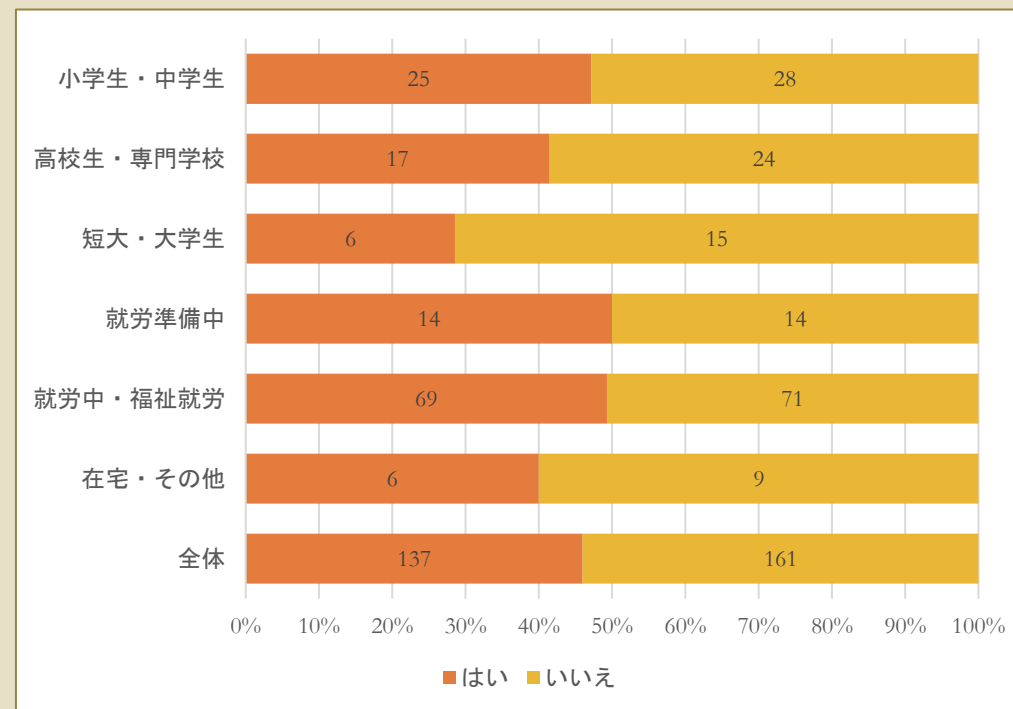
- ・コロナが怖くて外すことができない
- ・布マスクは効果が無いと教えられたらそれにこだわる。
- ・マスクをしない人に対して、いきなり注意してしまわないか心配

2、買い物等で通販や電子決済が進められていくことについて

①情報の入手や手続き等で不安はありますか？

- ・全体の46%が、「電子決済が進められていくと情報の入手や手続き等で不安がある」と回答。

	はい	いいえ
小学生・中学生	47%	53%
高校生・専門学校	41%	59%
短大生・大学生	29%	71%
就労準備中	50%	50%
就労中・福祉就労	49%	51%
在宅・その他	40%	60%
全体（平均）	46%	54%



グラフ中の棒上の数字は人数

②通販や電子決済について不安なこと

- ・ お金の管理や使い過ぎが心配。
- ・ パスワード等の情報の管理を自分でできるようになるのか不安。
- ・ トラブルが起きた時に対応できるかが心配。

③どのようにすれば不安を軽減できるか？

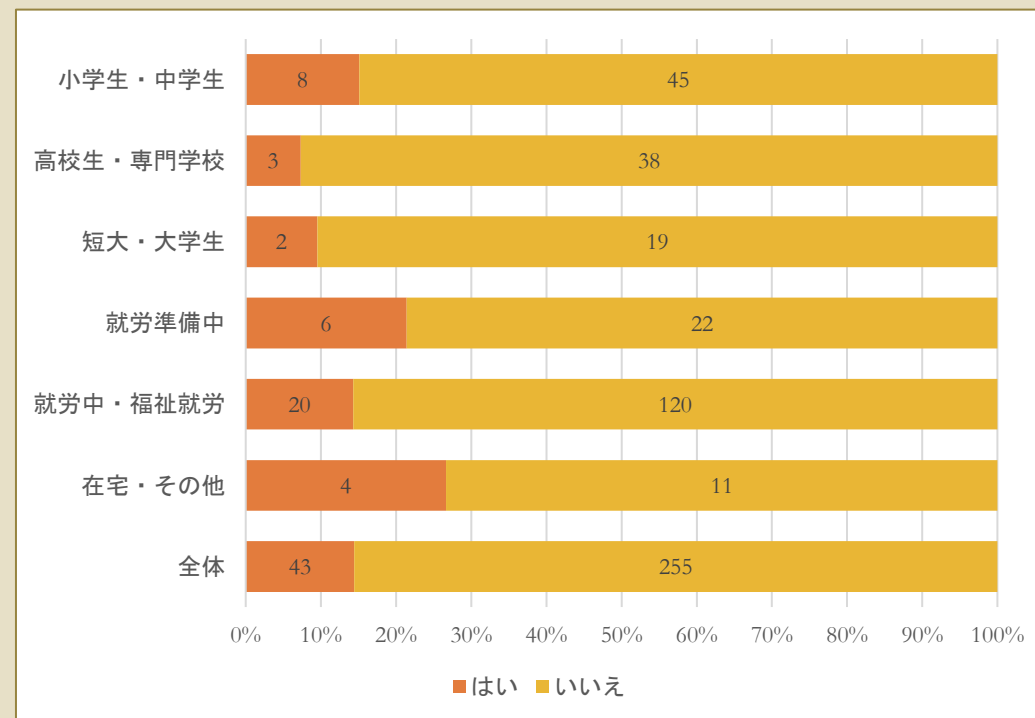
- ・ 電子化だけでなく、今まで通りの現金決算などを選択できるようになると良いと思う。
- ・ 金額の上限のない決済手段、複雑な決済方法は不安な為、プリペイド式のカードを持たせるようにしたい。
- ・ ITに不慣れな人、初心者にもわかりやすい表現、音声等で案内してくれるとありがたい。カタカナ用語もわからない人がいることに配慮して、注釈などもつけていただけると、戸惑いや不安が払しょくできると思う。

3、外出の際、身体的距離の確保や非接触応対について

①困っていることはありますか？

- ・全体の14%が「外出の際の身体的距離の確保や非接触応対等」で困っていると回答。

	はい	いいえ
小学生・中学生	15%	85%
高校生・専門学校	7%	93%
短大生・大学生	10%	90%
就労準備中	21%	79%
就労中・福祉就労	14%	86%
在宅・その他	27%	73%
全体（平均）	14%	86%



グラフ中の棒上の数字は人数

②外出の際、身体的距離の確保や非接触応対で困っていること

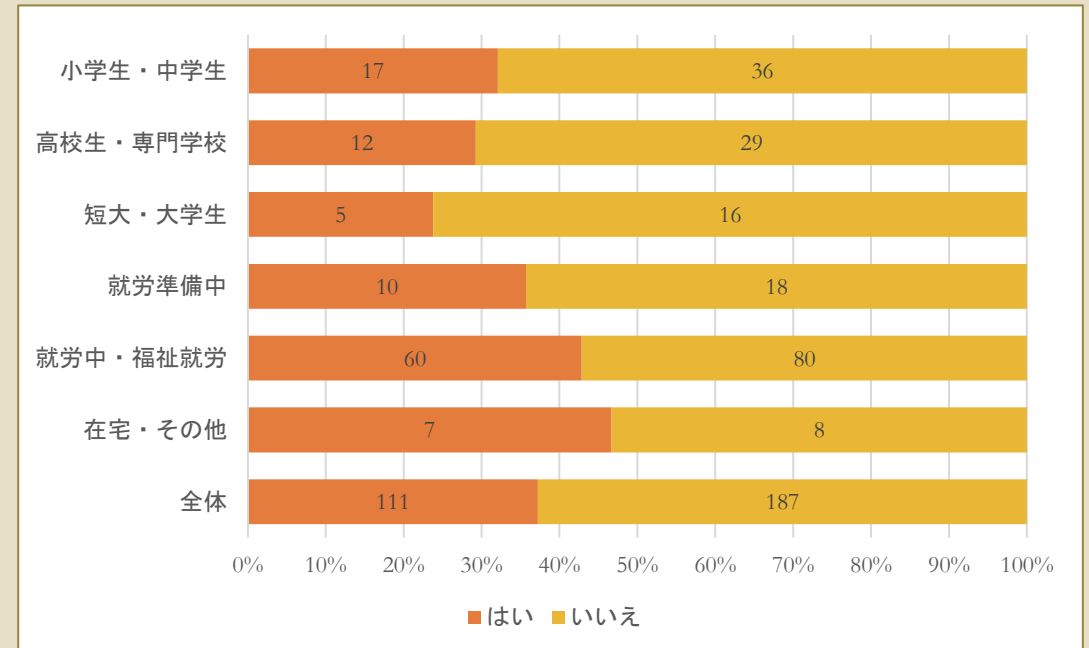
- ・ 距離感がわからない。パーソナルスペースがうまく取れない。
- ・ 話しをする時の声が大きいの。
- ・ ソーシャルディスタンスは感覚的なものなので、どう教えればよいか難しい。
- ・ マスクをしていない人が近くにいる場合、さりげなく距離を開くことが難しい。
- ・ 電車に乗る時の座席の位置のこだわりが強く、空いている場所に座らない。
- ・ 通院でコロナが流行る前とシステムが変わっていたため、対応ができなくて困った。
- ・ ソーシャルディスタンスを守れない大人がいるので、つい声に出して「近い」など言ってしまう。
- ・ 衛生エチケットを守らない人を見るとあからさまに嫌な表情や態度が出る。
トラブルに巻き込まれないか心配。

4、娯楽や趣味などの活動での身体的距離の確保やオンライン導入について

①不安なことはありますか？

- ・全体の37%が「娯楽や趣味の活動の身体的距離の確保やオンライン導入等」で困っていると回答。

	はい	いいえ
小学生・中学生	32%	68%
高校生・専門学校	29%	71%
短大生・大学生	24%	76%
就労準備中	36%	64%
就労中・福祉就労	43%	57%
在宅・その他	47%	53%
全体（平均）	37%	63%



グラフ中の棒上の数字は人数

② 娯楽や趣味などの活動での身体的距離の確保やオンライン導入で不安なこと

- ・ お金の管理や・外に行かなくなったので、運動不足やストレスがたまる。
- ・ 社会性を身につける機会が減る。
- ・ 直接人に会う機会が減ると、元々苦手なコミュニケーションがますます不得手になりそうで不安。
- ・ ネットのつながりが悪いとカッとなって物にあたってしまう。
- ・ ネット画面に、突然現れるバナー広告等がちらついてしまい、つらい。

③ どのようにすれば不安が軽減できるか？

- ・ 安全に簡単に利用でき、高額のコストが発生しないオンラインシステム。
- ・ オンラインに対応できる様に、PCやスマホの操作について教えてくれるところが必要。
- ・ 気を付けるべき事を具体化し、見える化すると不安が減る。

5、その他、日常生活における変化について

【小学生・中学生】

- ・外出が制限され、家でゲームをする時間が増えた。
ゲームばかりさせたくないが、友達と遊ぶ方法が他にない。
- ・休校中に昼夜逆転になり、その後も生活リズムが整わず学校を休む日が増えた。親もイライラしてきつく叱ることが増え、親子でこの先どのように立ち直っていけばいいのか？

<良かった点>

- ・以前は療育などで毎日忙しくしていたが、のんびり過ごす事ができ、気持ちや体力的にも楽になった。
- ・家で過ごす時間が増え、家族で色々話したり、料理したり一緒に何かやるようになった。

【高校生・専門学校】

- ・ コロナの未知なことに対する恐怖が息子のストレス。家から出たがらない。
- ・ 外に出る機会が減って、鬱傾向が強くなっている。

<良かった点>

- ・ マスク着用で顔が見られないので安心感があるようだ。

【短大生・大学生】

- ・ 外出できないと考えているようで、娯楽のチャンスもなく自宅でほとんど携帯を触って過ごす日々。
- ・ 予定がコロコロ変わって対応に苦慮している。
- ・ ゲームの時間が増え体力が無くなった。生活リズムが崩れたまま。

【就労準備中】

- ・ コロナが心配で趣味も就活も思うようにならず、家にこもるようになった。
- ・ 必要以上に感染への心理的警戒心が高まり、行動半径を大きく制限されている。

【就労中・福祉就労】

- ・ ちょっとでも体調の変化があると、その後1週間ぐらいは強い不安が続く。
- ・ 少々不健康な生活になり、体力が落ちて体調不良、怒りっぽくなったり、寝つきが遅くなったりしている。

<良かった点>

- ・ 仕事の時間が短く変わり、家事の手伝いなどに気が回るようになってきた。

【在宅・その他】

- ・ 外に出なくなっていてネット依存が進んでいる。将来の事など後回しになっている。
- ・ グループホームに入居し就労継続B型に通っていたが、自宅待機の状態が続いたことで事業所をやめ、実家に帰ってきてしまった。

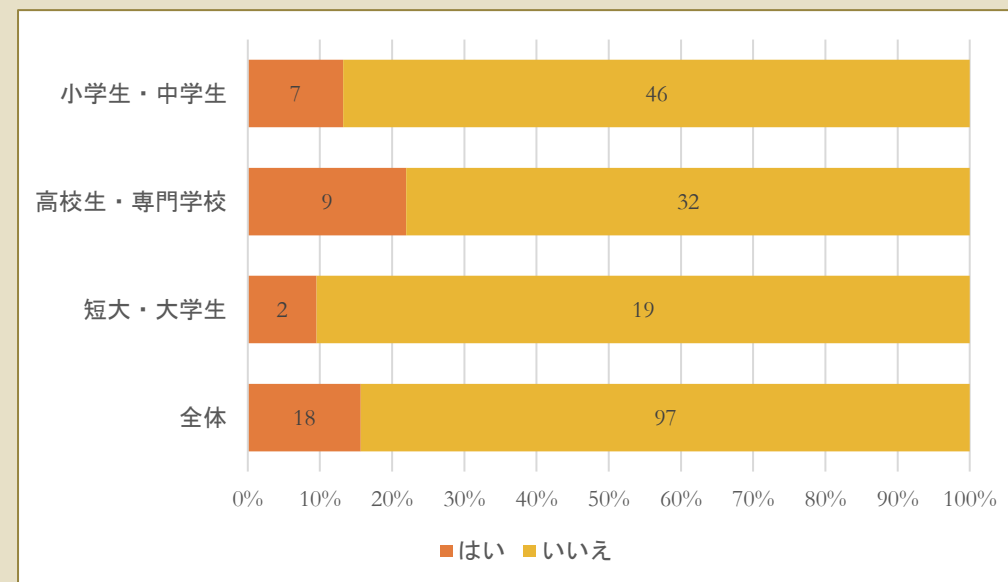
Ⅱ、学校・園の環境変化

Ⅰ、学校・園における感染症対策について

①困っていることや不安なことはありますか？

・小学生から大学生までの16%が「学校・園における感染症対策」で困っていると回答。

	はい	いいえ
小学生・中学生	13%	87%
高校生・専門学校	22%	78%
短大生・大学生	10%	90%
全体（平均）	16%	84%



グラフ中の棒上の数字は人数

②困っていること

【高校生・専門学校生】

- ・高校の教室は常に「密」なので、わずかな体調の変化でもコロナを疑い、不安になっている。
- ・寮のある学校なので、毎年、他校と比較して、インフルエンザやノロの感染が爆発的に起きる。

③どのようなになれば不安が軽減するか？

- ・マスク装着、人との距離を保つ、手洗いうがいなど、先生からの声かけ、確認してくれる人が必要。
- ・感染してしまった時、どうなるかが分かれば安心。
- ・少人数学級になれば不安が軽減できる。

2、休校や分散登校の影響について

【小学生・中学生】

- ・休校は仕方なかったが、ペースが乱れすぎて、なかなか元に戻らない。
- ・家で課題をこなさせるのは、親にとって本当に大変で苦痛。

<良かった点>

- ・分散して少人数のほうが、子どもたちが騒いだりせず落ち着いていた。
- ・聴覚過敏があるので、少人数で短時間の授業は負担が減って良かった。

【高校生・専門学校】

- ・休校中、課題の量が多くて大変だった。

<良かった点>

- ・体調が軽快し、心理社会的ストレスが軽減し、良いことの方が多かった。

【短大生・大学生】

- ・大学の試験はレポートか大学に登校しての試験か家での試験か、直前まで二転三転し相当ストレスが溜まった。

3、学校のICT教材や動画、パソコンやタブレット端末等による個別学習や同時双方向型の指導の導入について

【小学生・中学生】

- ・授業をくりかえし視聴できるシステムにしてほしい。
- ・学習支援アプリなどが特性のある子にも合うものだと助かる。

【高校生・専門学校生】

- ・オンライン授業の顔出し声出しが難しい人への個別の配慮が必要。
- ・休校時は課題の提出やzoomの操作など慣れない上、期限のあるものも多く一緒にせねばならず手間取った。

<良かった点>

- ・引きこもりが認められて楽になっている。オンライン授業は、教室での授業より集中できて、理解力が増した。

【短大生・大学生】

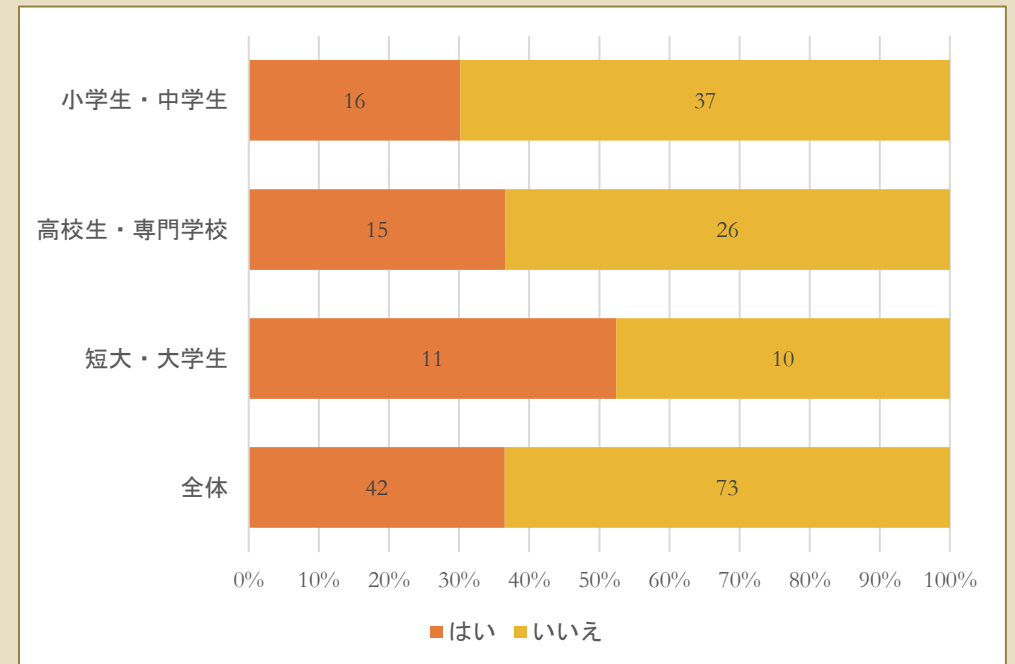
- ・オンライン授業や画面上の字を追うのがきついらしく単位も落とし、入学したばかりで既に留年しそうである。
- ・実習や実験についての相談や引き継ぎがオンラインでは十分にできず不安があるようだ。
- ・普段の授業より過度に集中するようで目も精神的にも通学より疲れるようだ。通常の授業時間より短めが良い。。
- ・担当教員によって、ソフトが違うため、使用方法に戸惑っていた。
- ・同時双方向授業が少なく、動画・コンテンツを見せるだけのオンライン授業が多く、本人の集中力が続かない。

4、学習環境の変化について

①不安や心配はありますか？

- 小学生から大学生までの37%が「学校・園における学習環境の変化」を不安に思っているとは回答。

	はい	いいえ
小学生・中学生	30%	70%
高校生・専門学校	37%	63%
短大生・大学生	52%	48%
全体（平均）	37%	63%



グラフ中の棒上の数字は人数

②学習環境の変化についての不安や心配

- ・自分で勉強できる子どもと、支援が必要な子どもとの学力の差がどんどん広がる気がする。
- ・休校措置や短縮授業の後、詰め込み式になり、パニックをよく起こし、自傷行為がひどくなっている。
- ・友達に教えてもらうことが難しくなる。
- ・実習や体験学習のようなものが中止になっている。
- ・休校分を取り戻すため、授業の進め方が早く、余計についていくのが大変になったような気がする。
- ・キャリア教育がコロナによってどうなるか不安。
- ・本人が「つまらない。集中力が続かない。学校からどんどん送られてくるメールを読むのがきつい」と言っている。
- ・授業や資格試験の対策、就職活動の指導など、例年通りしてもらえるのかどうか心配。

5、クラブ活動等の変化について

【小学生・中学生】

- ・ 毎年恒例の市内行事が中止になり参加できなくなった。
活動が減り、体験の幅が狭くなるのが残念だ。
- ・ できる範囲でいいので、再開してほしい。

【高校生・専門学校】

- ・ 秋に部活の大会が再開し、スケジュールがタイトになった分ほぼ毎週末でかけることになり、疲れている。
- ・ 大会がことごとく中止になり、意欲低下している。無観客も同様。
- ・ 入学当初にアプローチがなかったため、入れない。

【短大生・大学生】

- ・ 部活やサークルの勧誘は制限されており、体験の機会が少ないので入っていない。
- ・ 大学に入学して以来、サークル活動が全くできていないのが寂しい。

6、進学への準備への不安や課題について

【小学生・中学生】

- ・ 学園祭など、気軽に学校見学に行ける機会がなくなってしまったのが残念。
- ・ 説明会、体験学習の機会が減り、進路を決定するための生の情報が不足していると感じる。

【高校生・専門学校】

- ・ 出願等全ての手続きがオンライン化しているが、それが苦手な子供にとっては厳しいと感じる。
- ・ オープンキャンパスに行けない。

【短大生・大学生】

- ・ 卒業論文執筆へのコロナによる影響。

7、就職の活動への不安や課題について

【高校生・専門学校】

- ・障害枠の就職などさらに厳しくなる不安がある。
- ・就職の募集の取り消しが学校にきている。今年だけでなく、来年の予定もないという企業もあるようだ。
- ・就職のための面接など、ただでさえ苦手なのに、どういう形になるかわからないので不安。

【短大生・大学生】

- ・苦手なオンライン面接に苦勞している様子。
- ・一般就労の障害者枠を希望しているが、どこまで希望通りに行けるか不安。
- ・実習・資格取得への影響。
- ・インターンシップができずにいる。
- ・大学のキャリアサポートがオンラインになり縮小している。

8、その他、学校・園における変化

【小学生・中学生】

- ・学校行事の縮小や中止が残念。参観日も開催されず、学校での様子がわからず心配になる。
- ・行事で疲れてしまうことが無いので、その分遊びの時間が増え充実して過ごしている部分もある。

【高校生・専門学校】

- ・発達障害のある子どもにとって、学校は社会性を学ぶ極めて重要な場所。
コロナを契機に個別最適化」をめざす教材等が一気に導入され、社会性の獲得が一層軽視される傾向にある。学校に行っても社会性を学ぶ機会が保障されないのではないかと危惧している。
- ・友だちとの関わりがLINE中心になって、やりとりがこじれることがある。スマホを触る時間も増えている。
- ・学校のコロナ対策はしっかりしていて安心している。

【短大生・大学生】

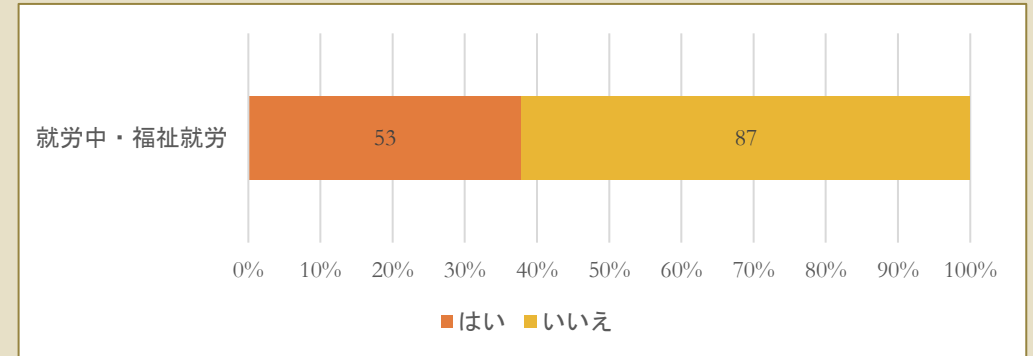
- ・登校かリモートか、本人が選べる授業が少しずつ出てきている。本人の体調などにより柔軟に授業のスタンスを決められるのは良い。
- ・多くの人（学生）と触れ合わなくて済む。聴覚過敏に苦しめられなくて良い。教授との距離が近くなった。

Ⅲ、仕事環境の変化

1、緊急事態宣言解除後、元の環境に戻りましたか？

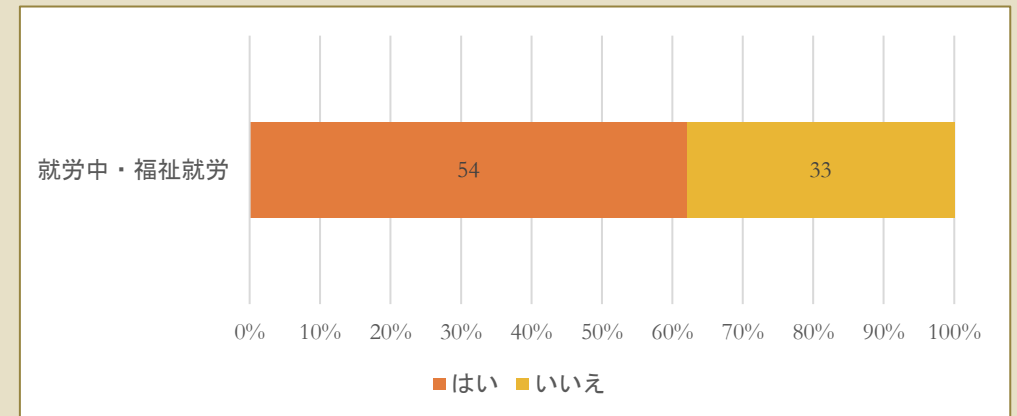
グラフ中の棒上の数字は人数

- ・就労中の62%が「元の環境に戻っていない」と回答。



2、戻っていない場合、現在の環境に不便や不満はありますか？

- ・元の環境に戻っていない場合の62%が「現在の環境に不便や不満を感じる」と回答。



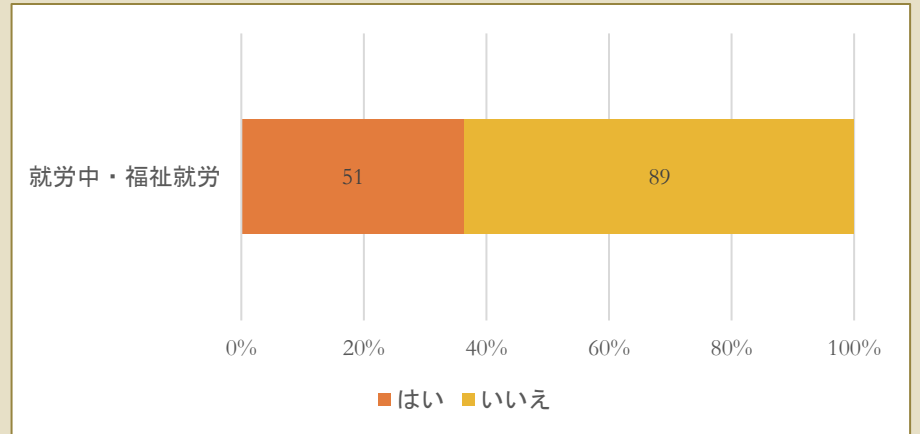
グラフ中の棒上の数字は人数

3、具体的にどのような不便や不満ですか？

- ・ 作業所の仕事が少なくなり、通所日数が少なくなった。
- ・ 仕事のシフトが不規則になった。
- ・ 毎年実施される技能研修がなくなった。
- ・ 職場が狭く、密になりやすい。
- ・ 会社の人に規定で、外に行く時の制約が厳しいため、ほとんど地域外へ行けない。
- ・ 少しの体調の変化があっても上司から休むように指示され、本人が神経質になっている。

4、雇用面や経済状況に不安や心配はありますか？

- ・就労中の36%が「雇用や経済状況に不安や心配がある」と回答。



グラフ中の棒上の数字は人数

5、具体的にどのような不安や心配ですか？

- ・雇用が社員からアルバイトになってしまった。
- ・給料が下がった。
- ・契約期間が短くなった。
- ・ずっと雇用契約継続してもらえるか不安。
- ・職場内で感染者が出て、濃厚接触者ではないが2週間出勤停止になり、給与保障はなかった。

6、その他、仕事における変化

- ・ コロナの影響で夜勤の時間帯が変わり、家族とほとんど会えない状況になった。
- ・ 毎日の検温、昼休みの取り方、手袋、マスクなど細かい規則が増えてとても疲れる。
- ・ 屋外での仕事なので、マスクの着用が増えている中、暑い時は、熱中症対策が大変だった。
- ・ 仕事が待機で休みが続いたり、急に出勤になったりして疲れやすい。

IV、支援機関の環境の変化

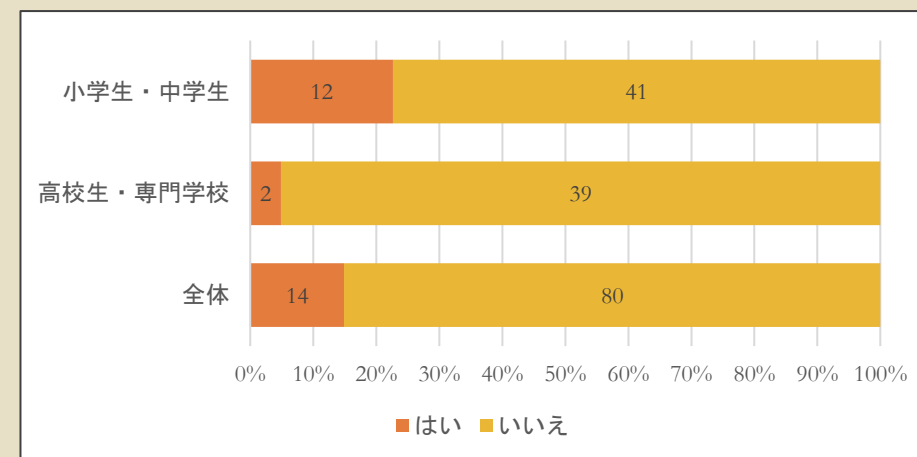
1、放課後ディサービスや発達支援サービスでの活動について

①不安や不便はありますか？

- 小学生と中学生の23%が「不安や不便がある」と回答。

グラフ中の棒上の数字は人数

	はい	いいえ
小学生・中学生	23%	77%
高校生・専門学校	5%	95%
全体（平均）	15%	85%



②放課後ディサービスや発達支援サービスで不安や不便なこと

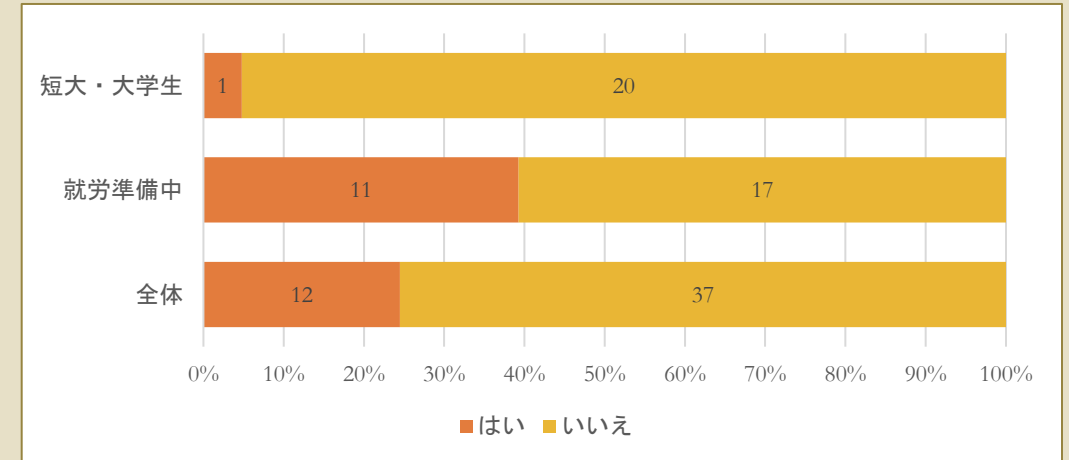
- 色々な地域の人々が狭い空間に集まるので不安。
- マスクや手洗いが出来ない利用者が多く、密な環境。
- 換気や消毒がきちんとされているかが保護者にはわからない。

2、就労移行支援や就労継続支援の活動について

①不安や不便はありますか？

- ・大学生・就労準備中の24%が「就労支援の活動に不安や不便がある」と回答。

	はい	いいえ
短大生・大学生	5%	95%
就労準備中	39%	61%
全体（平均）	24%	76%



グラフ中の棒上の数字は人数

②就労移行支援や就労継続支援の活動で不安や不便なこと

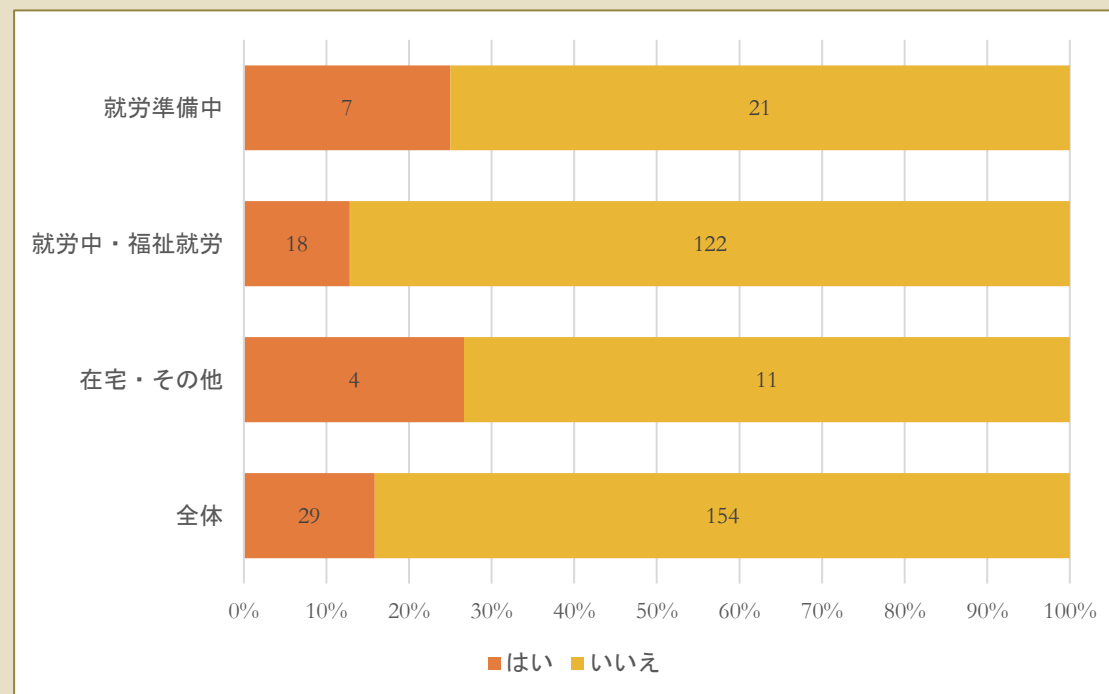
- ・就労支援はWEBでは難しいと思うので、在宅支援に戻ってほしくない。
- ・求人がない。障害者雇用での雇用が、ひどく限られている。
- ・実習に行けなくなって、経験する場が少なくなり、就職への道が遠くなったように感じる。

3、発達障害者支援センターや障害者就労・生活支援センター、ハローワーク等の利用について

①不安や不便はありますか？

・就労準備中の25%、在宅の27%が「不安や不便がある」と回答。

	はい	いいえ
就労準備中	25%	75%
就労中・福祉就労	13%	87%
在宅・その他	27%	73%
全体（平均）	16%	84%



グラフ中の棒上の数字は人数

② 支援機関・ハローワーク等の利用について不安や不便なこと

【就労準備中】

- ・ハローワークがものすごく混雑しているため、感染しないか不安。
- ・コロナ禍でハローワークでじっくり話を聞く時間が短くなった。

【就労中・福祉就労】

- ・会社への訪問が制限されているのではないかと心配。
- ・リモートや電話だけでは相談がうまく行かないかもしれないと不安。
- ・地域活動支援センターの開所時間が短くなった。

③ どうなれば不安が軽減できるか？

- ・リモートや電話だけではなく、以前のように対面で話をして欲しい。
- ・ハローワークがものすごく混雑しているため、ネット環境のある人はリモートにしてほしい。
- ・電話相談は相手の顔が見えないので、オンラインに切り替えてほしい。
- ・支援施設利用の人数制限と時間予約できるといい。

V、政府や自治体の施策について

1、新型コロナに対する施策等に対する情報保障・給付金や補助金の申請や利用の手続きについて

- ・学費免除申請や健康診断申し込みは、親が手伝わないと一人ではできなかった。
- ・今回は親が行ったが、親がいなくなったらどうしたのかと心配になる。
- ・就労支援施設に通える期間を1年延ばして欲しい。コロナが長引くようなら更なる延長も考えて欲しい
- ・本人の理解に問題あるので、手続きを手伝ってくれる人が欲しい。
- ・障害者がわかるような情報発信や補助金等のお知らせを出してほしい。
- ・手続き関係が苦手なので、障害年金など更新時期でしたが一年延期になり、助かった。

アンケート回答から見える今後の「新しい生活様式」への課題

新しい生活様式として、社会で非対面型・非接触型システムが進められていく上で、発達障害児者がその特性から情報を得ることができずに孤立することがないように、手立てを講じる必要がある。

- 1、急な環境変化に対して丁寧な説明と対応ができるような学びの場の構築
 - ・ 少人数学級
 - ・ ICT活用による一人一人に合った学びの環境設定

- 2、変化していく環境にあって、必要な情報入手や手続きの進め方に対する支援システムの構築

- ・ 支援機関の充実
- ・ 一人一人のニーズに沿った支援
- ・ 相談窓口の明確化と支援機能の充実

例：オンライン化や電子決済などの手続きの親身になった説明や支援